

## 手術部における薬剤師の役割

### ◆ 2010年9月より手術部サテライトファーマシー★を稼働開始

北海道大学病院における手術件数は、年々増加しており、(2000年：4765件、2005年：6075件、2010年：7335件)中でも全身麻酔の件数は非常に多く、43国立大学病院の中で常に上位に位置しています。そのような状況の中、薬剤部では、麻酔科医師や手術部看護師の業務軽減と医薬品の適正使用、適正管理を通して医療安全に貢献することを目的とし、手術部にサテライトファーマシーを構築し、業務を開始しました。これまでの主な業務を以下に示します。

1. 手術部システムHODMS2 (Hokkaido Operation Data Monitoring System 2)を用いた麻酔薬処方オーダーシステムの構築、メンテナンス
2. 麻酔薬の処方監査、取り揃え
3. クリーンベンチ内での麻酔注射薬の無菌混合調製
4. 医療用麻薬の管理、およびシステム化
5. リアルタイム薬品管理装置(LITERA®)による毒薬・向精神薬等の管理
6. 在庫薬品(定数カート、定数配置輸液)の適正化

手術部では、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技師、検査技師、事務員、清掃員などの多職種が集まり、患者への危機管理・安全管理・感染管理の観点から、専門的な知識や情報を提供し、協力して手術を支援しています。その中で薬剤師は、薬学的な観点から、医療用麻薬、筋弛緩薬、鎮静薬、循環器用薬、消毒薬等の適正使用を推進し、安全な医療を提供することを心がけています。



麻酔薬セットカート (左) とLITERA® (右)



手術部サテライトのクリーンベンチ

★サテライトファーマシー:主となる薬剤部から離れて存在する薬局

サテライトの稼働開始から約1年が経過し、医師、看護師からいただいた薬剤に関する問い合わせを以下にまとめました。(図1.a.b.c)

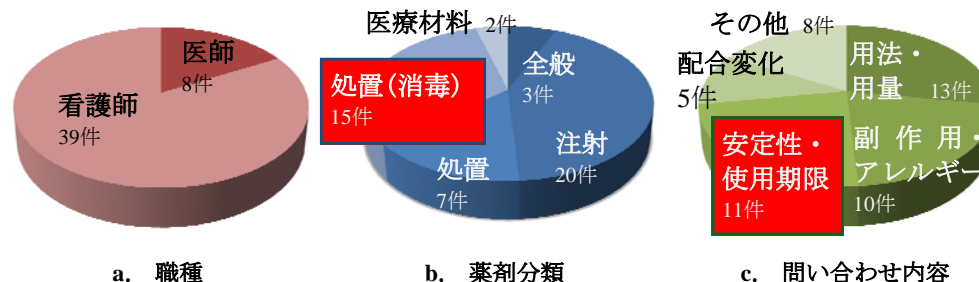


図1. 手術部サテライトファーマシーで受けた問い合わせの分類

約8割が看護師からの質問であり、注射薬と並び処置薬、特に消毒薬に関する質問が多く、安定性や開封後の使用期限に関する内容が多くを占めました。そこで、消毒薬の開封後の使用期限について説明します。

### ◆ 消毒薬の開封後(分割使用時)の使用期限の目安

消毒薬の使用期限は、使用方法、使用頻度、保管条件等により左右されます。したがって、「この薬剤は〇ヶ月」といった明確なデータは存在せず、使用期限の目安にすぎないことをご理解ください。消毒薬で問題となるのは、微生物汚染を受ける可能性のある低水準度、特に低濃度のものです(表1)。高、中水準度のものは基本的に使用期限まで使用可能と考えられます。

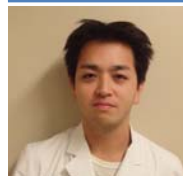
表1. 当院で採用されている低水準度の消毒薬

成分名	商品名(当院採用)	
クロルヘキシジングルコン酸塩	マスキン水0.05%	滅菌製剤
	ステリクロンW0.5%	滅菌製剤
	ヒビテン液5%	非滅菌製剤
	ヒビテン・グルコネート20%	非滅菌製剤
塩化ベンザルコニウム	逆性石けん液「ヨシダ」0.025%	滅菌製剤
	オスバン消毒液10%	滅菌製剤

これらの消毒薬は、綿球やガーゼの長期間使用や浸漬時の継ぎ足しなどの誤った使用方法により微生物汚染が検出されることがありますが、通常の蓋付き容器で分割投与した場合にはあまり検出されず、3ヶ月は使用できるといわれています。参考までに、手術部では使用頻度等を考慮し、通常使用時には1ヶ月、無菌部位へ使用する場合には24時間以内の使用を推奨しています。消毒薬の適正使用にご協力ください。1) Oie S, Kamiya A: Biol Pharm Bull, 20:667-669, 1997

## Staff Interview

薬剤師 山崎 浩二郎



現在は手術部サテライトに常駐し、手術部スタッフの一員として、毎日の手術が円滑にすすむように心がけながら働いています。感染制御の知識をより深め、クリーンな薬物療法を支援できる清潔感のある薬剤師を目指しています。